

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成 27 年 4 月 2 日 (2015.4.2)

【公開番号】特開 2013-166495 (P2013-166495A)
 【公開日】平成 25 年 8 月 29 日 (2013.8.29)
 【年通号数】公開・登録公報 2013-046
 【出願番号】特願 2012-31668 (P2012-31668)
 【国際特許分類】

B 6 0 R 21/239 (2006.01)

B 6 0 R 21/205 (2011.01)

【 F I 】

B 6 0 R 21/239

B 6 0 R 21/205

【手続補正書】
 【提出日】平成 27 年 2 月 10 日 (2015.2.10)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

ガス供給口を有するエアバッグ本体と、
 前記ガス供給口を通じて前記エアバッグ本体内にガスを供給するインフレータと、
 前記エアバッグ本体に設けられ、前記エアバッグ本体内に引込まれるときに、前記エアバッグ本体内のガスを排気可能にする排気状態から前記エアバッグ本体内のガスの排気を抑制する非排気状態に切り替えられる排気状態切替部材と、
一端部が前記排気状態切替部材に連結されると共に、端部が前記エアバッグ本体の内周部の一部に連結される連結部材と、
前記エアバッグ本体に形成され、前記排気状態における前記排気状態切替部材の排気速度よりも小さい排気速度でガスを排出するベントホールと、
 を備え、

前記エアバッグ本体の内周部に、前記連結部材をその長手方向に沿って移動可能に支持する環状中継部が設けられ、前記エアバッグ本体の膨張状態において、前記連結部材が前記環状中継部を経由して曲るように配設され、

前記排気状態切替部材の配設位置と、前記エアバッグ本体の内周部に対する前記連結部材の連結位置と、前記環状中継部とが、前記エアバッグ本体の膨張形態のうち、そのエアバッグ本体が正規姿勢状態の乗員を受け止める際にその乗員との接触部分を避けた部分に設けられている、エアバッグ装置。

【請求項 2】

請求項 1 記載のエアバッグ装置であって、
 前記排気状態切替部材の配設位置と、前記エアバッグ本体の内周部に対する前記連結部材の連結位置と、前記環状中継部とが、前記エアバッグ本体の膨張形態のうち、そのエアバッグ本体が正規姿勢状態の乗員を受け止める際に変形する部分を避けた部分に設けられている、エアバッグ装置。

【請求項 3】

請求項 1 又は請求項 2 記載のエアバッグ装置であって、
 前記排気状態切替部材の配設位置と、前記エアバッグ本体の内周部に対する前記連結部

材の連結位置と、前記環状中継部とが、車両組付状態から膨張する前記エアバッグ本体の膨張形態のうち、車両の前後方向に２分割した車両基準の前半部分に設けられている、エアバッグ装置。

【請求項４】

請求項１～請求項３のいずれか１つに記載のエアバッグ装置であって、

前記エアバッグ本体の膨張形態の一侧部に前記排気状態切替部材が設けられ、前記エアバッグ本体の膨張形態の上部又は前部に前記環状中継部が設けられ、前記連結部材の他端部が前記環状中継部を経由して前記エアバッグ本体の膨張形態の他側部の内周部に連結されている、エアバッグ装置。

【請求項５】

請求項１～請求項４のいずれか１つに記載のエアバッグ装置であって、

基端部が前記エアバッグ本体の外周部に連結されると共に、先端部が前記ガス供給口とは反対側に向けて前記エアバッグ本体に覆い被さるように延在するフラップをさらに備えるエアバッグ装置。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１１】

上記課題を解決するため、第１の態様に係わるエアバッグ装置は、ガス供給口を有するエアバッグ本体と、前記ガス供給口を通じて前記エアバッグ本体内にガスを供給するインフレータと、前記エアバッグ本体に設けられ、前記エアバッグ本体内に引き込まれるときに、前記エアバッグ本体内のガスを排気可能にする排気状態から前記エアバッグ本体内のガスの排気を抑制する非排気状態に切り替えられる排気状態切替部材と、一端部が前記排気状態切替部材に連結されると共に、端部が前記エアバッグ本体の内周部の一部に連結される連結部材と、前記エアバッグ本体に形成され、前記排気状態における前記排気状態切替部材の排気速度よりも小さい排気速度でガスを排出するベントホールとを備え、前記エアバッグ本体の内周部に、前記連結部材をその長手方向に沿って移動可能に支持する環状中継部が設けられ、前記エアバッグ本体の膨張状態において、前記連結部材が前記環状中継部を経由して曲るように配設され、前記排気状態切替部材の配設位置と、前記エアバッグ本体の内周部に対する前記連結部材の連結位置と、前記環状中継部とが、前記エアバッグ本体の膨張形態のうち、そのエアバッグ本体が正規姿勢状態の乗員を受け止める際にその乗員との接触部分を選けた部分に設けられている。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１２

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１２】

第２の態様は、第１の態様に係わるエアバッグ装置であって、前記排気状態切替部材の配設位置と、前記エアバッグ本体の内周部に対する前記連結部材の連結位置と、前記環状中継部とが、前記エアバッグ本体の膨張形態のうち、そのエアバッグ本体が正規姿勢状態の乗員を受け止める際に変形する部分を選けた部分に設けられている。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１３】

第 3 の態様は、第 1 又は第 2 の態様に係わるエアバッグ装置であって、前記排気状態切替部材の配設位置と、前記エアバッグ本体の内周部に対する前記連結部材の連結位置と、前記環状中継部とが、車両組付状態から膨張する前記エアバッグ本体の膨張形態のうち、車両の前後方向に 2 分割した車両基準の前半部分に設けられている。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

第 4 の態様は、第 1 ～ 第 3 のいずれか 1 つの態様に係わるエアバッグ装置であって、前記エアバッグ本体の膨張形態の一側部に前記排気状態切替部材が設けられ、前記エアバッグ本体の膨張形態の上部又は前部に前記環状中継部が設けられ、前記連結部材の他端部が前記環状中継部を経由して前記エアバッグ本体の膨張形態の他側部の内周部に連結されている。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

第 5 の態様は、第 1 ～ 第 4 のいずれか 1 つの態様に係わるエアバッグ装置であって、基端部が前記エアバッグ本体の外周部に連結されると共に、先端部が前記ガス供給口とは反対側に向けて前記エアバッグ本体に覆い被さるよう延在するフラップをさらに備える。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

第 1 の態様によると、連結部材を、環状中継部を経由して曲がるように配設することで、エアバッグの膨張形態において、連結部材をより確実に引っ張ることにより、排気状態切替部材をより完全に引き込んでより確実に非排気状態に切り替えることができる。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

第 4 の態様によると、連結部材は、前記エアバッグ本体の膨張形態の一側部から他側部

に向けて、その上方又は前部の環状中継部を経由して配設される。これにより、エアバッグの膨張形態において、連結部材をより確実に引っ張り、排気状態切替部材をより完全に引き込んでより確実に非排気状態に切り替えることができる。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

第 1 の態様によると、エアバッグ本体が通常に膨張した場合には、前記ベントホールによってガスを排出することができる。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

第 5 の態様によると、非正規姿勢時にエアバッグ本体が膨張しようとする際に、フラップが乗員に当接すると、その部分でエアバッグ本体の膨張が抑制される。エアバッグ本体の部分的な膨張を抑制することで、連結部材の引っ張りを抑制して、排気状態切替部材が非排気状態に切り替え又は維持されることを抑制できる。これにより、非正規姿勢時に、なるべく乗員の位置、姿勢に拘らず、エアバッグ本体の急な膨張を抑制できる。